

〔第40回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

質量分析を用いた アルツハイマー病の病態解析

共同利用推進室

渡邊 淳 室長

2019年5月14日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

我が国では全人口に占める65歳以上の高齢者の割合が、2007年に21%を突破して超高齢社会となり、それと共に認知症患者も増加し、2025年に700万人、すなわち高齢者の5人に1人が認知症になると予測されている。その主な原因であるアルツハイマー病に関して、治療薬の開発が試みられているが、その多くが有効な結果が得られなかったとして、臨床試験が中止となっている。その一方で、診断面ではPETを用いたイメージングによって、アミロイドの蓄積の有無を観察することが可能となり、さらに、質量分析によって、血液でアルツハイマー病の発症前の徴候を捉えることができるようになった。病気の進行に応じて、老人斑と神経原線維変化といったアルツハイマー病の病理も変化するので、関連するタンパク質の挙動も変化することが予想される。それらが血液中で解析できれば、安価で迅速な病態評価が可能になり、予防法及び治療法の開発に役立つことが期待される。本研究発表会では、質量分析を用いたアルツハイマー病のバイオマーカーの探索について報告するとともに、最新の質量分析装置でどのようなことが可能になるかについて紹介します。

座長：福森 亮雄

連絡先：副所長室(内線5002)